

これまでの議論の整理

武道振興の意義

青少年健全育成

- ・日本古来の伝統に基づく「道」(日本の伝統的な行動様式 = 生き方)を教えていく点が武道の特徴的なところ。日本の伝統文化を知ることは大事。
- ・「礼に始まり礼に終わる」精神は、子どもたちにとってプラスになる。礼を重視する武道の精神を、教育に活かせるのではないか。
- ・相手を思いやる心、相手と理解し合う心など、「心の教育」に資する。

生涯スポーツ

- ・武道は、子どもから高齢者まで取り組める生涯スポーツであり、健康維持に資するほか、年齢に応じた取組ができる。
- ・高齢の方が若い世代の方と同じ競技で鍛錬し、指導することができるなど、高齢者の生きがいにつながる。
- ・県全体のスポーツ振興のためには、親子又は祖父母を含めた三世代で一緒にスポーツができるような環境が必要ではないか。

参考

しあわせ信州創造プラン(長野県総合5か年計画)

4 健康づくり・医療充実プロジェクト

【目標】県民一人ひとりが長寿かつ健康で生涯にわたりいきいきと暮らせる長野県をめざします。

長野県スポーツ推進計画

<基本目標2> ライフステージに応じたスポーツ活動の推進

【5年後の目指す姿】 県民誰もが、年齢、体力、技術、適性、興味・目的に応じて安全にスポーツに親しむことができる生涯スポーツ社会の実現に向けた取組みが進んでいます

拠点の必要性

指導者育成の拠点

< 現状 >

・県内武道団体の拠点がないため、日本武道館からの講師派遣等を受け入れる窓口がない。(全国都道府県立武道館協議会に加盟している他都道府県では、武道館が窓口となって講師派遣や補助金を受入れ。)

< 武道団体から >

・財政規模の小さい団体もあり、日本武道館からの講師派遣を受け、最新の指導法を教えていただくことは、指導者育成にとって望ましい。

・武道の振興のためには、指導者育成が重要。

< 委員意見 >

・子どもたちに武道の楽しみを伝えることのできる指導者の育成が必要ではないか。

・体系的な指導者育成を行う組織及び拠点が必要ではないか。

・中学校における武道必修化に伴い、指導者の養成が必要ではないか。

競技者育成の拠点

< 委員意見 >

・きちんとした指導を受けることや、他種目との交流等を通して、競技力の向上が期待できるのではないか。

組織の拠点

< 武道団体から >

・武道団体が一堂に会することにより、お互いに学べる機会になり、武道全体の普及発展につながるのではないか。

< 委員意見 >

・武道関係団体の連携が密になり、情報交換ができるのではないか。

情報発信の拠点

< 武道団体から >

・広い層から武道を知ってもらうため、情報発信・PRの拠点としたい。

< 委員意見 >

・武道振興のためには、武道の面白さを伝え、身近に感じられる場所が必要ではないか。

精神的拠点

< 武道団体から >

・武道に対する県の姿勢を示してほしい。

< 委員意見 >

・選手の目標となる拠点、県としてのシンボルが必要ではないか。

施設の必要性

大会の誘致

< 武道団体から >

- ・北信越レベル以上の大会の開催会場を確保することが非常に困難で、大会の誘致がなかなかできない。
- ・既存の武道施設では、規模が小さかったり、観客席がなかったりする等、大規模な大会は開催できない。
- ・大会の開催のための会場設営が大変。

< 委員意見 >

- ・いいプレーを観たり、レベルの高い選手の態度や輝き方を観たりすることは、子どもたちに感動を与え、武道への関心が高まるのではないか。
- ・一流のものを観るためには、一流の場所が必要ではないか。

スポーツ観光

< 委員意見 >

- ・東京オリンピック・パラリンピック等の開催を見据え、事前合宿や練習場所として活用できるのではないか。
- ・スポーツ観光、スポーツ振興の面からも、可能な限り早く施設の建設を。

競技継続のための環境

< 委員意見 >

- ・競技を続けたい人が他都道府県に流出しているという現実がある。
- ・長野県に戻ってきて活躍できる場所があることはスポーツの振興には重要。
- ・長野県で競技を続けるための魅力づくりや力を発揮できる場の提供のため、施設が必要なのではないか。

特殊な構造

< 武道団体から >

- ・普通の体育館の床は硬く、その上での練習は、成長過程にある子どもたちにとってはあまりいい状況ではない。
- ・裸足で行うため、体育館の支柱固定用金属をマスキングするなど、けが防止への配慮が必要。
- ・日常的に活動するため、屋内土俵が欲しい。

< 委員意見 >

- ・裸足で行うという武道の特性や床に思い切り踏み込んだり、床に投げられたりする際の衝撃を考慮し、けがの防止や安全な環境づくりのため、スプリングの入った武道専用の床が必要ではないか。
- ・いい環境で稽古することにより、技術向上・競技力向上につながるのではないか。

県立施設の建設にあたっての留意点

県の財政面

・県の財政状況が厳しい中、新たな施設を建設し、維持管理していくための工夫が必要

既存施設とのすみ分け

・武道振興のための県立施設を新たに建設した場合の、既存施設との役割分担・連携が必要

建設後の施設の利活用

・建設後の施設利用率の確保や、県民にとって使いやすい施設にするための方策が必要